

2021年度（2022年3月期）第2四半期 決算説明会



2021年11月24日



大日本塗料株式会社

証券コード 4611 東証第一部

目次

Part I . 決算実績・業績予想	p. 2
Part II . 中期経営計画の進捗状況	p. 19
Appendix . 会社紹介、関連会社事業紹介	p. 28



Part I . 決算実績・業績予想

1. 2021年度 第2四半期決算実績

① 連結損益計算書

- 各セグメントで前期に比べ需要が回復し増収増益となり、概ね予想水準での着地
- 原油などの資源高が想定を上回る水準で推移し、原材料コストが増大

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		中間予想比	
	中間実績	中間予想	中間実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	30,379	33,000	32,817	+ 2,438	+ 8.0%	△ 182	△ 0.6%
売上総利益	8,880	9,920	9,946	+ 1,066	+ 12.0%	+ 26	+ 0.3%
販売費及び 一般管理費	8,064	8,220	8,200	+ 135	+ 1.7%	△ 19	△ 0.2%
営業利益	815	1,700	1,746	+ 930	+ 114.2%	+ 46	+ 2.7%
経常利益	1,038	1,750	1,752	+ 713	+ 68.7%	+ 2	+ 0.1%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	413	1,000	920	+ 506	+ 122.5%	△ 79	△ 7.9%
国産ナフサ(円/KL)	27,600	47,000	50,600	+ 23,000	+ 83.3%	+ 3,600	+ 7.7%

1. 2021年度 第2四半期決算実績

②設備投資・減価償却費・研究開発費

- 2020年度2Qは技術センターの建設、中国新工場の建設により投資額がスポット的に増加

(単位：百万円、%)	2020年度	2021年度		
	中間実績	中間実績	増減額	増減率
減価償却費	1,184	1,282	+ 97	+ 8.3%
設備投資額	2,199	903	△ 1,295	△ 58.9%
研究開発費	926	969	+ 42	+ 4.6%

1. 2021年度 第2四半期決算実績

③セグメント別売上高

- 国内塗料、海外塗料は工業分野を中心に、コロナ影響から需要の持ち直しにより大幅に増収
- 照明機器は、コロナ影響からの回復が部分的かつ東京五輪期間の開発停滞により、予想比では未達

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		中間予想比	
	中間実績	中間予想	中間実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	30,379	33,000	32,817	+ 2,438	+ 8.0%	△ 182	△ 0.6%
国内塗料	22,922	24,500	24,380	+ 1,458	+ 6.4%	△ 119	△ 0.5%
海外塗料	2,355	3,200	3,498	+ 1,143	+ 48.6%	+ 298	+ 9.3%
照明機器	3,447	3,850	3,602	+ 154	+ 4.5%	△ 247	△ 6.4%
蛍光色材	558	580	620	+ 62	+ 11.1%	+ 40	+ 7.0%
その他	1,095	870	715	△ 379	△ 34.7%	△ 154	△ 17.8%

1. 2021年度 第2四半期決算実績

④国内分野別・海外地域別売上高

- 国内：一般分野は前期から引き続き堅調に推移、工業分野はコロナ影響から需要が持ち直し、増収
- 海外：各地域において自動車生産台数が持ち直し、大幅に増収

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		中間予想比	
	中間実績	中間予想	中間実績	増減額	増減率	増減額	増減率
国内塗料	22,922	24,500	24,380	+ 1,458	+ 6.4%	△ 119	△ 0.5%
一般分野	8,744	8,900	9,070	+ 326	+ 3.7%	+ 170	+ 1.9%
工業分野	7,654	8,520	8,444	+ 789	+ 10.3%	△ 75	△ 0.9%
その他分野	1,581	2,030	1,954	+ 373	+ 23.6%	△ 75	△ 3.7%
子会社・調整等	4,942	5,050	4,910	△ 31	△ 0.6%	△ 139	△ 2.8%
海外塗料	2,355	3,200	3,498	+ 1,143	+ 48.6%	+ 298	+ 9.3%
東南アジア	1,663	2,200	2,550	+ 886	+ 53.3%	+ 350	+ 15.9%
中国	377	500	438	+ 60	+ 16.1%	△ 61	△ 12.3%
北中米	313	500	509	+ 196	+ 62.5%	+ 9	+ 1.9%

1. 2021年度 第2四半期決算実績

⑤セグメント別営業利益

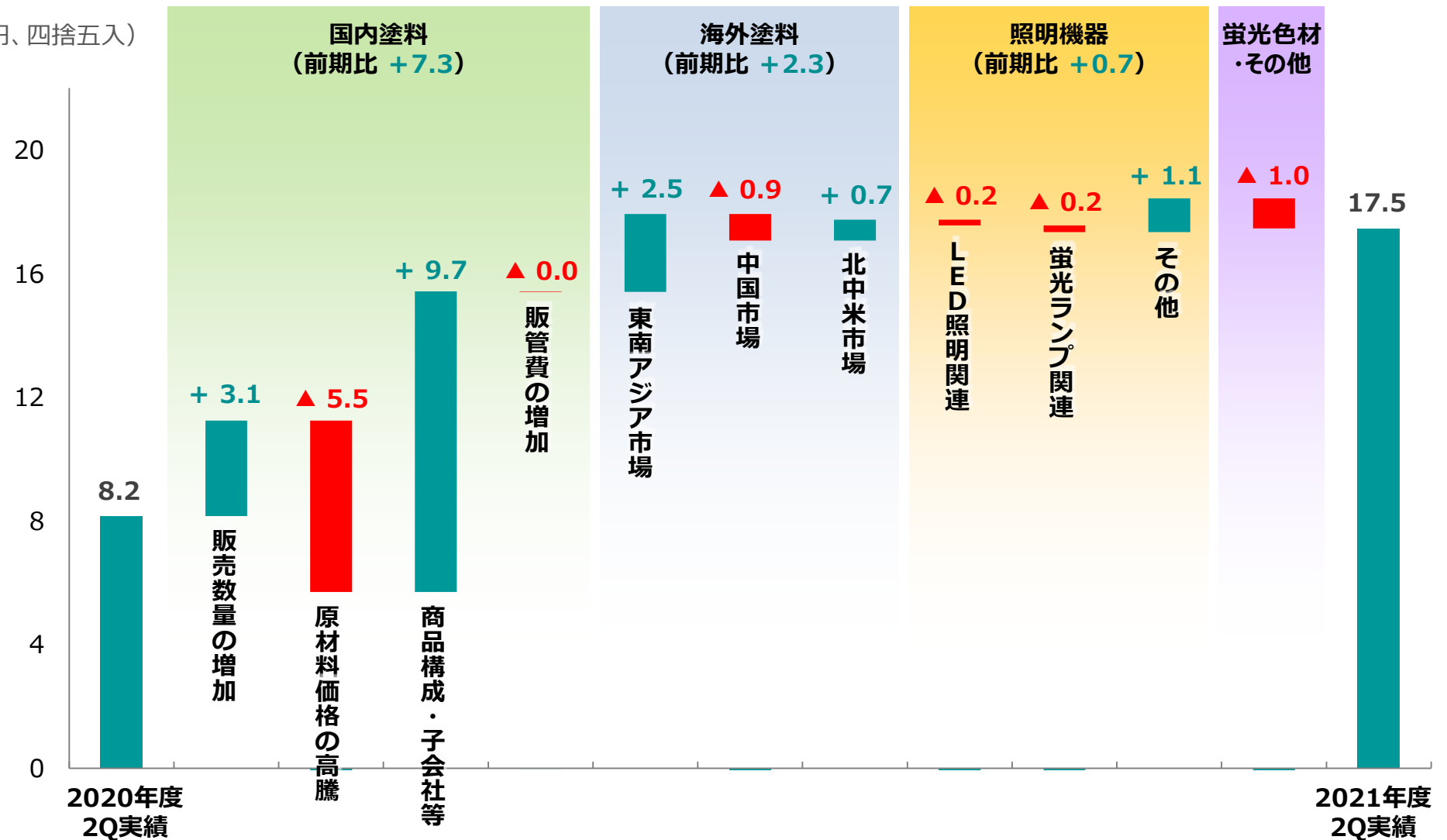
- 国内塗料、海外塗料、照明機器は増収に伴い、大幅に増益
- 蛍光色材は、前期における高付加価値品の特需が剥落し、減益

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		中間予想比	
	中間実績	中間予想	中間実績	増減額	増減率	増減額	増減率
営業利益	815	1,700	1,746	+ 930	+ 114.2%	+ 46	+ 2.7%
国内塗料	352	1,000	1,077	+ 725	+ 205.6%	+ 77	+ 7.8%
海外塗料	31	200	264	+ 233	+ 746.5%	+ 64	+ 32.3%
照明機器	144	330	213	+ 69	+ 48.0%	△ 116	△ 35.4%
蛍光色材	37	30	27	△ 10	△ 27.3%	△ 2	△ 8.0%
その他	151	40	45	△ 105	△ 69.6%	+ 5	+ 14.7%
調整額	98	100	116	+ 18	+ 18.8%	+ 16	+ 16.9%

1. 2021年度 第2四半期決算実績

⑥ 連結営業利益（実績）の増減要因

(億円、四捨五入)



1. 2021年度 第2四半期決算実績

⑦ 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2021年3月末	2021年9月末	増減額
流動資産	33,073	33,073	+ 0
現金及び預金	6,983	6,506	△ 476
受取手形及び売掛金	15,739	15,497	△ 241
たな卸資産	8,930	9,800	+ 869
その他流動資産	1,420	1,269	△ 150
固定資産	52,691	53,060	+ 368
有形固定資産	25,877	25,682	△ 195
無形固定資産	424	423	△ 1
投資その他の資産	26,389	26,955	+ 565
資産合計	85,765	86,134	+ 368
負債合計	34,900	34,873	△ 26
(借入金残高)	(5,900)	(5,200)	(△ 700)
純資産合計	50,865	51,260	+ 395
負債純資産合計	85,765	86,134	+ 368

1. 2021年度 第2四半期決算実績

⑧連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2020年度2Q	2021年度2Q	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,404	1,839	+ 434
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,403	△ 758	+ 644
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,700	△ 1,690	△ 5,390
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 195	122	+ 318
現金及び現金同等物の増減額	3,506	△ 486	△ 3,992
現金及び現金同等物の期首残高	5,064	6,736	+ 1,672
現金及び現金同等物の期末残高	8,570	6,250	△ 2,319

2. 事業環境認識

国内塗料	<ul style="list-style-type: none">■ 2020年度に堅調に推移した構造物分野は、2021年度も同水準の需要見込み■ 工業用分野は、半導体等の部材不足により、自動車産業や電気機器向けの需要が停滞■ ナフサ価格やエポキシ樹脂価格の高騰、一部原材料の調達逼迫による原価率の悪化 → 分野別の対策を実行中
海外塗料	<ul style="list-style-type: none">■ 下期（7月）以降、半導体等の部材不足に起因し、各国における自動車生産台数が前期比で減少傾向に転じる■ 中国の電力制限により、顧客の生産調整が発生■ DNT浙江は2022年2月に危険化学品を含む営業・生産許可を取得予定■ 原材料価格及び海上輸送費の高騰による原価率の悪化 → 各社にて対策を実施中
照明機器	<ul style="list-style-type: none">■ 緊急事態宣言の解除、オリンピックによる開発停滞の反動需要により、2021年度下期のLED照明市場は緩やかな回復を見込む■ 2020年度後半に上市した紫外線除菌新製品の新規開拓を継続■ 蛍光ランプ市場は緩やかな減少が継続
共通	<ul style="list-style-type: none">■ 新型コロナウイルスの世界的な感染動向は今後も不透明であり、内外経済の下振れリスクは根強く残る

3. 2021年度 通期業績予想

① 連結損益計算書（予想）

- 半導体等の部材不足により需要が低調に推移することが見込まれ、売上高は期初予想を下回る見通し
- 原油価格の更なる高騰や一部原材料の逼迫の影響で、原材料価格の高騰が期初の想定より長期化・悪化

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		期初予想比	
	通期実績	期初予想	修正予想	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	63,160	67,500	66,700	+ 3,539	+ 5.6%	△ 800	△ 1.2%
売上総利益	19,165	20,400	19,670	+ 504	+ 2.6%	△ 730	△ 3.6%
販売費及び 一般管理費	16,336	16,400	16,470	+ 133	+ 0.8%	70	+ 0.4%
営業利益	2,828	4,000	3,200	+ 371	+ 13.1%	△ 800	△ 20.0%
経常利益	3,268	4,100	3,300	+ 31	+ 1.0%	△ 800	△ 19.5%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,968	2,500	2,000	+ 31	+ 1.6%	△ 500	△ 20.0%
国産ナフサ(円/KL)	31,325	47,000	52,300	+ 15,675	+ 50.0%	+ 5,300	+ 11.3%

3. 2021年度 通期業績予想

②設備投資・減価償却費・研究開発費

- 今期は大型投資は予定しておらず、減価償却費、設備投資、研究開発費ともに中間期実績の水準で下期も推移する予定

(単位：百万円、%)	2020年度	2021年度		
	通期実績	通期予想	増減額	増減率
減価償却費	2,426	2,600	+ 173	+ 7.2%
設備投資額	3,213	2,000	△ 1,213	△ 37.8%
研究開発費	1,947	2,000	+ 52	+ 2.7%

3. 2021年度 通期業績予想

③セグメント別売上高（予想）

- 国内塗料、海外塗料ともに工業分野の需要が低調に推移すると見込まれる
- 照明機器は、オリンピックによる開発停滞の反動等により、上期と比較すると需要環境が好転する見通し

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		期初予想比	
	通期実績	期初予想	修正予想	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	63,160	67,500	66,700	+ 3,539	+ 5.6%	△ 800	△ 1.2%
国内塗料	47,232	49,900	49,400	+ 2,167	+ 4.6%	△ 500	△ 1.0%
海外塗料	5,486	6,500	6,750	+ 1,263	+ 23.0%	+ 249	+ 3.8%
照明機器	7,239	8,050	7,700	+ 460	+ 6.4%	△ 350	△ 4.3%
蛍光色材	1,117	1,160	1,250	+ 132	+ 11.9%	+ 90	+ 7.8%
その他	2,084	1,890	1,600	△ 484	△ 23.2%	△ 290	△ 15.3%

3. 2021年度 通期業績予想

④国内分野別・海外地域別売上高（予想）

- 国内：一般分野は堅調を維持、工業分野は顧客の生産調整等による減産が予想され、期初予想比減額
- 海外：半導体不足の影響が強まり、下期は前期比で微増に留まる見通し

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		期初予想比	
	通期実績	期初予想	修正予想	増減額	増減率	増減額	増減率
国内塗料	47,232	49,900	49,400	+ 2,167	+ 4.6%	△ 500	△ 1.0%
一般分野	17,541	18,130	18,930	+ 1,388	+ 7.9%	+ 800	+ 4.4%
工業分野	16,390	17,820	16,900	+ 509	+ 3.1%	△ 920	△ 5.2%
その他分野	3,709	4,100	3,860	+ 150	+ 4.1%	△ 240	△ 5.9%
子会社・調整等	9,590	9,850	9,710	+ 119	+ 1.2%	△ 140	△ 1.4%
海外塗料	5,486	6,500	6,750	+ 1,263	+ 23.0%	+ 249	+ 3.8%
東南アジア	3,809	4,300	4,680	+ 870	+ 22.8%	+ 380	+ 8.8%
中国	856	1,200	1,100	+ 243	+ 28.4%	△ 100	△ 8.3%
北中米	819	1,000	970	+ 150	+ 18.4%	△ 30	△ 3.0%

3. 2021年度 通期業績予想

⑤セグメント別営業利益（予想）

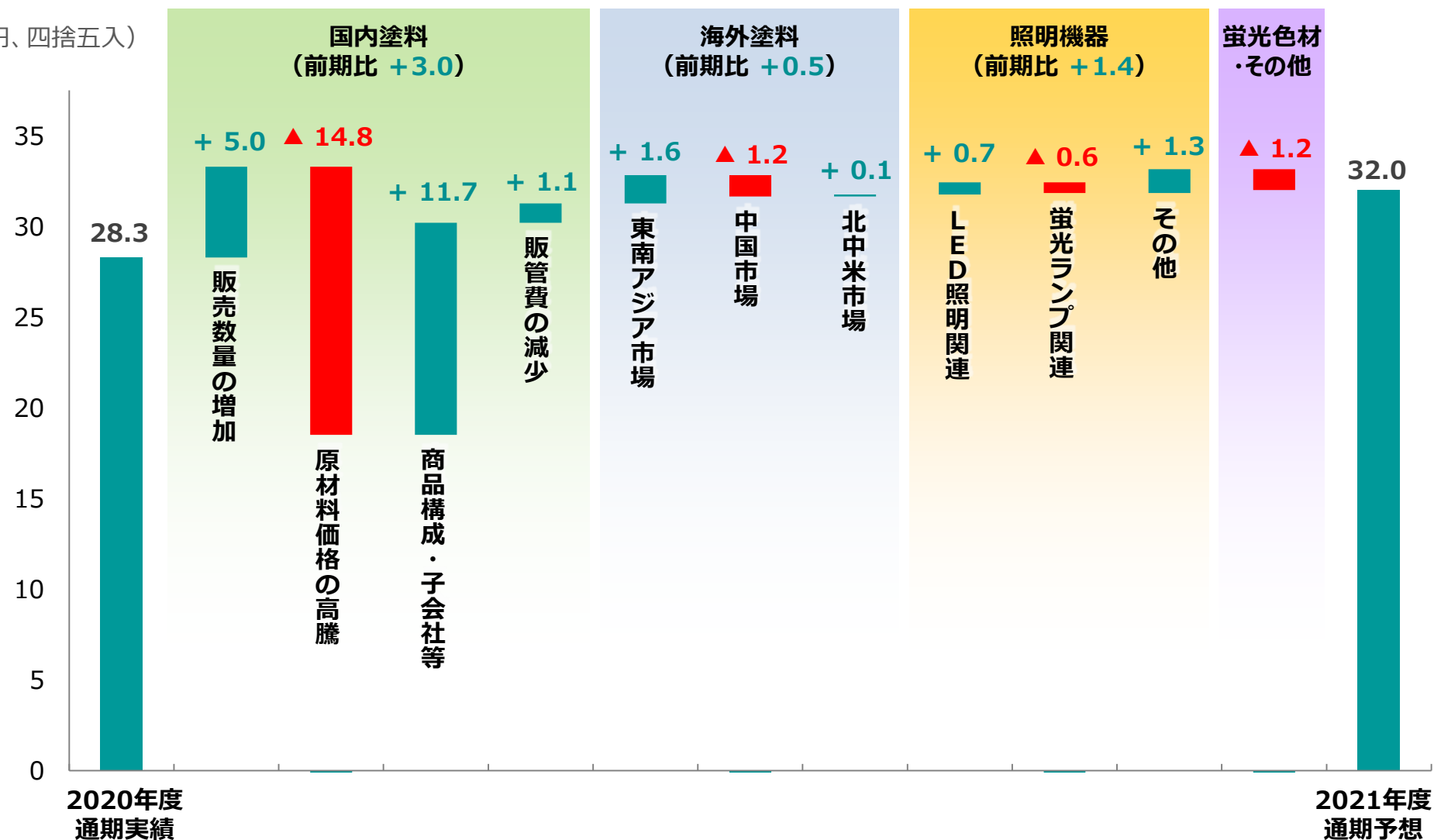
- 国内塗料、海外塗料では原材料価格高騰の影響が強まり、期初予想比で大幅な減益を見込む
- 照明機器は、下期においては需要の持ち直しにより期初予想水準の利益となる見通し

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		前期比		期初予想比	
	通期実績	期初予想	修正予想	増減額	増減率	増減額	増減率
営業利益	2,828	4,000	3,200	+ 371	+ 13.1%	△ 800	△ 20.0%
国内塗料	1,631	2,400	1,930	+ 298	+ 18.3%	△ 470	△ 19.6%
海外塗料	221	500	270	+ 48	+ 22.1%	△ 230	△ 46.0%
照明機器	479	730	620	+ 140	+ 29.2%	△ 110	△ 15.1%
蛍光色材	54	60	60	+ 5	+ 9.3%	+ 0	+ 0.0%
その他	257	110	110	△ 147	△ 57.3%	+ 0	+ 0.0%
調整額	183	200	210	+ 26	+ 14.4%	+ 10	+ 5.0%

3. 2021年度 通期業績予想

⑥ 連結営業利益（予想）の増減要因

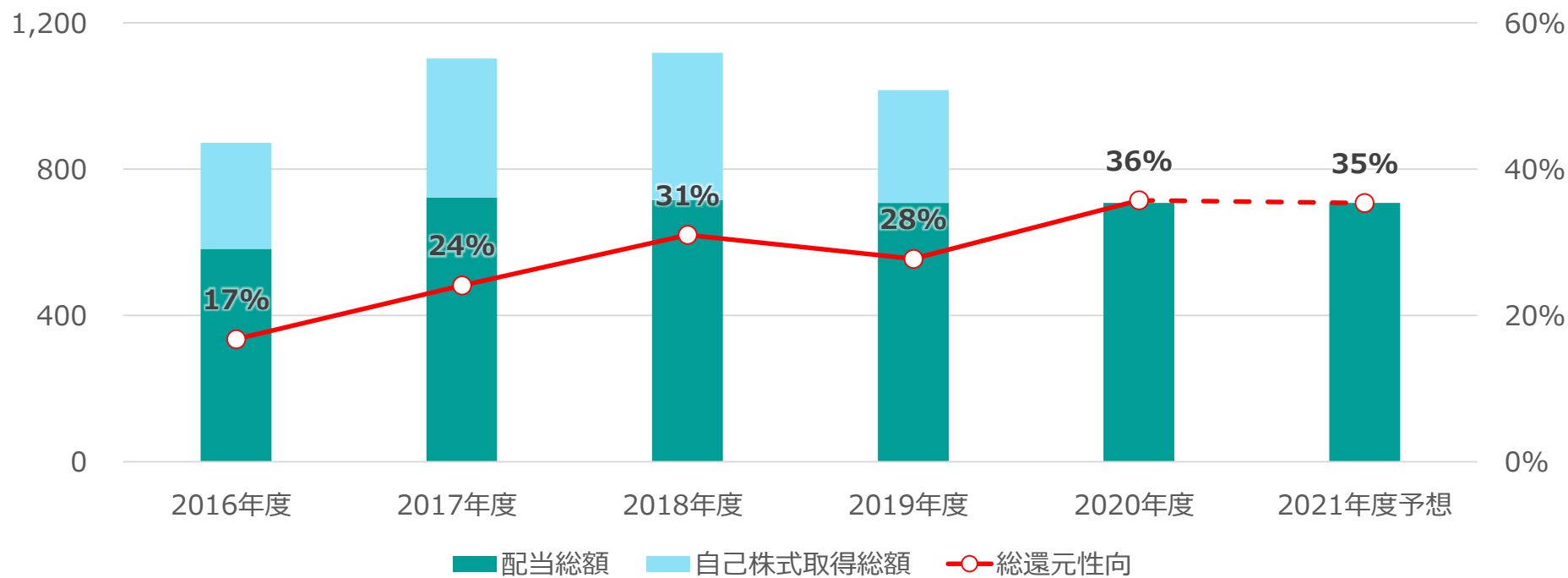
(億円、四捨五入)



4. 株主還元

- 業績予想は下方修正するが、配当予想は1株あたり25円配当予定に変更はなし

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1株当たり配当金	20円	25円	25円	25円	25円	25円(予想)
自己株式取得額	290百万円	380百万円	403百万円	308百万円	0円	0円(予想)





Part II. 中期経営計画の進捗状況

1. 中期経営計画の概要

コンセプト

2029年度の創立100周年における「持続的成長力を持つ企業」の達成に向け、今中計期間において成長軌道を確立

基本施策	2020年度	2021年度	2023年度	
	(単位:百万円) 通期実績	修正予想	通期目標	
1.提供価値の強化	売上高	63,160	66,700	75,000
	国内塗料	47,232	49,400	54,000
2.価格競争力の強化	海外塗料	5,486	6,750	8,200
	照明機器	7,239	7,700	9,400
	蛍光色材	1,117	1,250	1,300
3.販売体制の強化	その他	2,084	1,600	2,100
	営業利益	2,828	3,200	6,600
	国内塗料	1,631	1,930	3,600
4.労働生産性の向上	海外塗料	221	270	1,100
	照明機器	479	620	1,300
	蛍光色材	54	60	120
5.海外事業の強化	その他	257	110	220
	調整	183	210	260

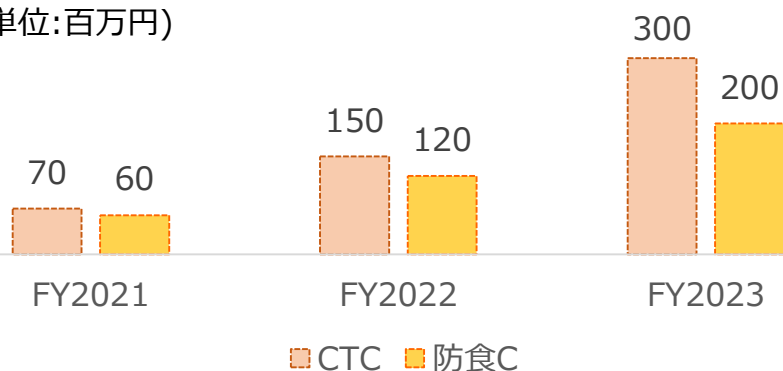
2. 主要施策の進捗状況

① 提供価値の強化（技術センターの活用）

- 2年目となる技術センターの取り組みは周知活動のフェーズを終え、今期より収益貢献の創出フェーズへ移行
- 顧客からの様々な要望への対応を通じて、利用循環性を高めていく

センター活用による目標総利益

(単位:百万円)



活動のポイント

- 今期の総利益目標に対しては**両センターともに達成**する見通し
- 来期の案件材料は現時点で確保できているが、2023年度の目標達成に向けては更なる案件の積み重ねが必要
- 今後、収益貢献に向けた取り組みと共に、当社の**ESGへの取り組みの最前線施設**として活用

進捗中の主な案件

コーティング技術センター (CTC)

- 工業用水性塗料の塗装作業性検証
- 欧州REACH規制に適合した塗料開発
- インクジェット加飾や金属調塗料といったデザイン性に優れた塗装システムの展開



防食技術センター (防食C)

- 水性重防食塗料の塗装作業性評価
- 抗菌・抗ウイルス塗料の試験塗装

2. 主要施策の進捗状況

② 価格競争力の強化


- 原材料統合による大幅な原材料コスト低減に着手し、売上原価の大部分を占める変動費率の低下を図る
- グループ全体の生産体制を最適化し、固定費の圧縮を図る

	取り組み状況	2023年度目標
原材料コスト低減 	<ul style="list-style-type: none">■ 原材料コスト削減に向け、配合見直しをはじめとして10テーマに分けて検討を実施■ 2020年度は配合見直し、購買施策の効果が顕在化も限定的■ 2021年度はナフサ価格、エポキシ樹脂価格の高騰のほか、一部原材料の逼迫により仕入価格の急騰が発生しており、優先的に対処中	2019年度比 材料費率 1%超 の削減
製造コストの圧縮 	<ul style="list-style-type: none">■ 2020年度にグループ内の塗料製造拠点を7→6拠点へ集約■ 今期中に塗料製造拠点を6→5拠点へ集約すべく、現在設備の移設や試作品の評価を実施中	2019年度比 3億円 の削減

2. 主要施策の進捗状況

③ 販売体制の強化

- 国内におけるトップライン拡大に向け、営業情報のグループでの組織共有に向けた仕組みづくりを推進するとともに、販売ネットワークの拡充により、販売力の底上げを図る

	取り組み状況
営業情報のグループ組織共有	<ul style="list-style-type: none">■ 営業支援システム導入による顧客・物件情報の円滑な共有■ 大阪・関西万博、IR関連施設、都市再開発や競技場新設・改修といった大型物件をターゲットとして、分野をまたいだ受注活動を推進■ 塗料業界におけるDXを活用した受発注システム導入の支援を開始
販売店ネットワーク拡充強化	<ul style="list-style-type: none">■ 2020年後半に国内販売代理店30社超へヒアリングを実施 ⇒ その後、緊急事態宣言の再発出により訪問活動を一時中断していたが、今秋より活動再開■ DNT・販売代理店双方の課題を整理のうえ販売代理店に対するリレーション強化や販促方法の改善検討 

2. 主要施策の進捗状況

④ 海外事業の強化

- 新工場への事業移管が遅れる中国事業の再建が最重要課題
- 東南アジア、北中米市場では自動車部品を軸に、新規取引の獲得に注力

	取り組み状況	2023年度 目標
中国市場	<ul style="list-style-type: none">■ 新工場のDNT浙江では、非危険化学品（粉体塗料、水系塗料）は4月から製造・販売を開始■ 危険化学品（溶剤系塗料）は試生産を開始し、2022年2月に危険化学品を含む営業・生産許可を取得予定■ 工業用塗料は、中国の環境規制強化に対し、粉体塗料や水系塗料等の環境対応製品の拡販に注力■ 一般用塗料は、抗菌・抗ウイルス製品の市場導入を進める	営業利益 1.2億円 2019年度 0.1億円
東南アジア市場	<ul style="list-style-type: none">■ タイDNTの技術部再編・機能強化の活用を通じた、自動車部品向け既存顧客のシェア拡大と新規獲得活動の実施■ 環境対応に関する顧客要望に沿い、トルエン・キシレンフリーの洗浄用シンナーを試験的に発売	営業利益 7.8億円 2019年度 6.1億円
北中米市場	<ul style="list-style-type: none">■ 自動車部品向け新規顧客へのアプローチ■ 競争力強化に向けた製造品質レベルの向上や生産効率の改善検討	営業利益 2.7億円 2019年度 2.3億円

2. 主要施策の進捗状況

⑤ 照明機器事業の強化

- 21年度からの業績回復に向け、「業容の拡大」とそれを支える「基本体質の強化」を両輪で進める

新たな市場の開拓を含めた取引先基盤の拡充

- ① 市場開発プロジェクトを活用した**新市場の開拓と既存市場の拡充**
(製品組み込み照明市場、ホテル業界、オフィス照明市場、野菜・きのこ市場、UV除菌装置等)
- ② マーケティング・コミュニケーションを起点とした**発信力の強化・顧客訴求力の向上**
- ③ 新製品を活用した既存先へのシェアアップ

生産体制と製品開発体制のレベルアップ

- ① 生産子会社における**プロセスイノベーションPJ(生産効率化)**の成果を発現
- ② 海外を含めた**グループ生産体制の見直し**
- ③ 外部連携を含めた**製品開発体制の強化とスピードアップ**
- ④ 物流体制の見直しと在庫管理のレベルアップ
- ⑤ 需要動向を踏まえた**蛍光灯生産体制の見直し**

既存市場の拡充



オンラインセミナー

発信力の強化



展示会 CareTEX 出展

新製品の活用・展開



くりんクリンシリーズ

プロセスイノベーション



IoTを活用したコンベア生産ライン

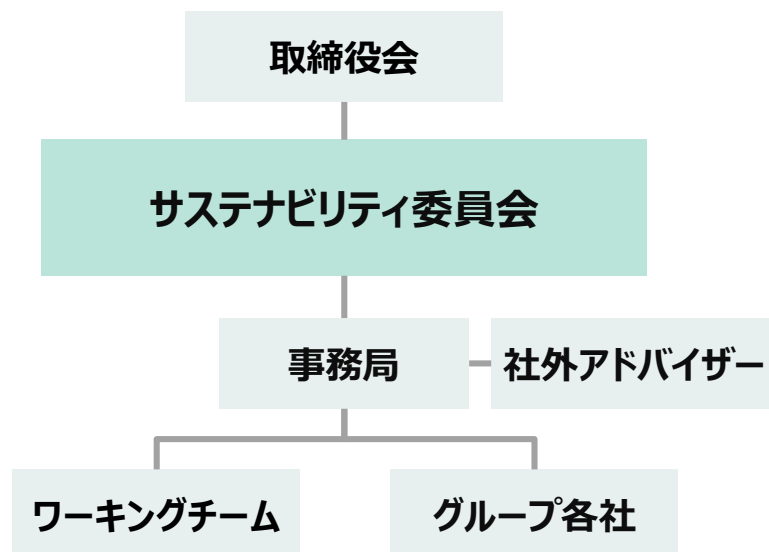
3. ESG経営の推進に向けた新体制の発足

- 中長期的な企業価値の向上に向けて、ESGの取り組みを成長機会と捉えた事業活動を推進
- 活動を本格化するべく、サステナビリティ委員会を立ち上げて全社的な検討をスタート

ESG推進体制の構築

サステナビリティ委員会の創設

全社的なESGへの取組方針やKPI等について協議し、施策の決定、進捗管理及び必要な指示等を行う



2021年度の活動目標(一部抜粋)

環境

- エネルギー使用量、CO2排出量の原単位削減
- 太陽光パネルの設置、使用エネルギーの切り替え等の検討や設備・運用方法の見直し
- 廃棄物総量の削減、リサイクル率の改善
- 社内の環境対応製品基準に沿った開発体系の確立
- 環境対応製品の販売促進

社会

- 設備管理システムの定着化により、重大事故・災害のリスク低減
- 働き方改革の推進／女性従業員の積極採用
- 地域関係団体、協会活動への参加

ガバナンス

- コーポレートガバナンスの基本方針に則った取締役会全体の実効性評価、概要の開示
- 改訂CGCへの対応、開示
- コンプライアンス研修、啓発活動の継続

4. トピックス

皮脂軟化対策の水性建築塗料が2021色材協会「技術賞」を受賞

- (一社)色材協会が主催する2021年度色材研究発表会にて、「アクアマリンタックレス」が技術賞を受賞
- 本塗料は皮脂による塗膜軟化や汚れを防止する水性塗料であり、当社では2019年度以来の受賞

「アクアマリンタックレス」の概要

扉や手摺など、人の手が触れやすい箇所は、皮脂が塗膜内に浸透していくことで**塗膜が軟化**し、黒ずみなどの汚れや塗膜の剥離を引き起こします。

アクアマリンタックレスは、**塗膜の樹脂粒子が互いに強く結びつく構造**により、黒ずみや塗膜剥離の原因となる皮脂の塗膜への浸透を防ぎます。

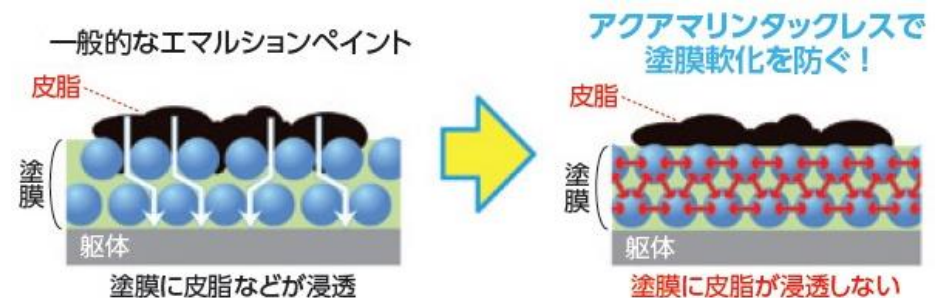
皮脂軟化による塗膜剥離の事例



◎ 製品の特長

- 皮脂による塗膜軟化や汚れに強い
- 粘着性（タック）の無い塗膜を形成
- 耐水性、耐アルコール性に優れる
- 水性で環境に優しい（放散等級F☆☆☆☆）
- 作業性に優れ、仕上がりが良好

塗膜軟化を防ぐメカニズム



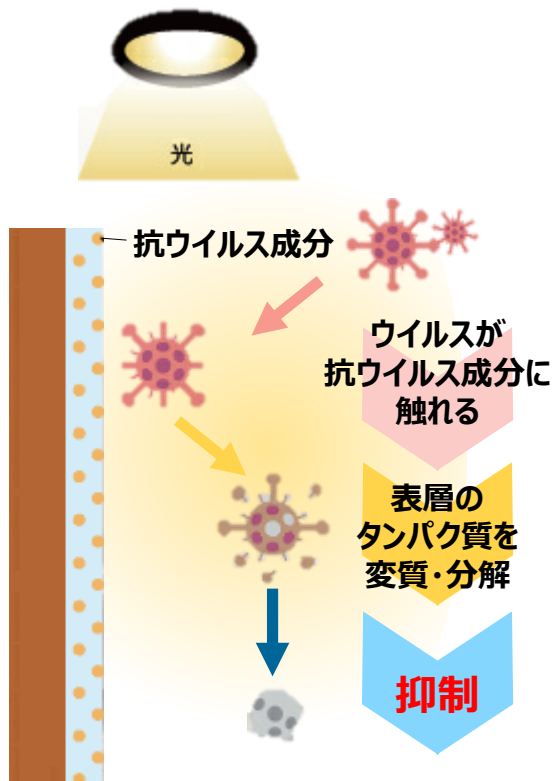
4. トピックス

新製品：焼付用抗ウイルスクリアー塗料「アンチウイルスクリアーZ」

- 従来の塗装にクリアーとして塗り重ねることで、抗ウイルス機能を付与する焼付用クリアー塗料
- 可視光応答形光触媒の作用で蛍光灯やLEDなどの室内照明に反応し、塗膜表面に付着したウイルスを抑制

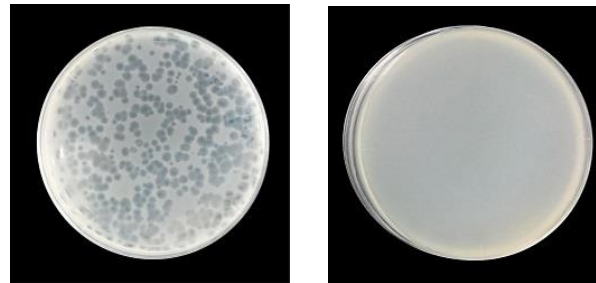
「アンチウイルスクリアーZ」の概要

抗ウイルス機能のメカニズム



抗ウイルス性試験結果

- 抗ウイルス性試験により塗膜表面に付着したウイルスを4時間で99.9%抑制することを確認



無加工塗料

アンチウイルスクリアーZ

[試験規格] JIS R 1756 : 2020
(可視光応答形光触媒、抗ウイルス、フィルム密着法)

[光源] 白色蛍光灯

[照射条件] 可視光500lx、
照射時間4時間

◎ 製品の特長

- 塗膜表層に付着したウイルスを抑制する抗ウイルス機能
- クリアー塗料なので、被塗物の意匠性を損なわない
- 焼付温度が130℃と一般的な焼付塗料（150～180℃）よりも低温での焼付塗装が可能のため、施工が容易



Appendix. 参考情報

① 会社概要

商号	大日本塗料株式会社 / Dai Nippon Toryo Company,Limited
本社	〒542-0081 大阪市中央区南船場1-18-11 SRビル長堀
設立	1929年7月25日
資本金	8,827 百万円（2021年9月30日現在）
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部（証券コード：4611）
主要株主 （2021年9月末 上位10社）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） ■ 明治安田生命保険相互会社 ■ DNT取引関係持株会 ■ 株式会社三菱UFJ銀行 ■ 三菱商事株式会社 ■ 株式会社日本カストディ銀行（信託口） ■ 東京海上日動火災保険株式会社 ■ 富国生命保険相互会社 ■ 株式会社島津製作所 ■ BNYMSANV AS AGENT / CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1

② 主要事業の概要

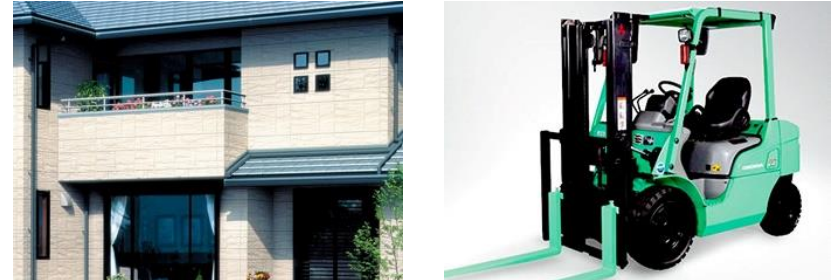
- 当社コア技術の重防食塗料は、橋梁や鉄塔、産業プラントなどに塗装され、当分野では国内トップシェア
- 工業分野では顧客ニーズに細かく対応。インクジェットとの組み合わせにより、独自の価値を顧客へ提供

一般分野



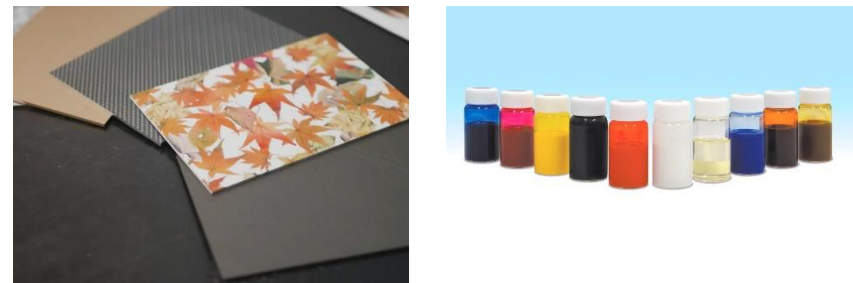
- 一般分野では重防食塗料に強みを持ち、鋼構造物を錆などの腐食から長期的に保護
- 塗装工程の短縮や塗替えサイクルの長期化により、ライフサイクルコスト、ライフサイクルアセスメントを軽減し、持続可能な社会の実現に貢献

工業分野



- 顧客ニーズに沿った製品開発により、建材、鋼製家具、建機・農機、金属部材と幅広い分野をカバー

その他（インクジェットプリント）



- 塗料とインクの双方を手掛けており、インク的美観性と塗料の耐久性を両立したコーティングを実現

③ 連結業績推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
売上高 (百万円)	72,623	73,005	76,388	72,789	74,119	73,743	72,709	62,475
営業利益 (百万円)	4,274	4,428	5,858	6,533	6,588	6,039	5,547	2,828
経常利益 (百万円)	4,210	4,498	5,559	6,600	6,392	6,210	5,786	3,268
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,592	2,756	3,614	5,199	4,573	3,604	3,662	1,968
純資産額 (百万円)	22,978	28,441	30,620	36,319	43,349	45,083	44,679	50,865
総資産額 (百万円)	65,291	69,252	67,732	70,374	76,155	78,880	76,817	85,765
1株当たり純資産 (BPS) (円)	736.86	891.46	974.38	1,171.93	1,410.38	1,478.43	1,475.59	1,698.23
1株当たり当期純利 益(EPS) (円)	87.28	92.83	122.38	178.06	157.70	125.61	128.96	69.55
自己資本比率 (%)	33.5%	38.2%	42.3%	48.5%	53.5%	53.6%	54.4%	56.0%
自己資本当期純利 益率(ROE) (%)	12.9%	11.4%	13.1%	16.6%	12.2%	8.7%	8.7%	4.4%

①照明機器事業 (DNライティング(株)・ニッポ電気(株))

- 様々な空間に対応する多彩な品揃え、お客様ニーズを実現するカスタマイズ力、多品種・高品質を支える自社生産体制により、多様な空間でお客様のニーズを満たす最高のあかり素材を提供し続ける照明専門メーカー

店舗照明



- 百貨店などの商業施設の商品や展示品の魅力を最大限に引き出す棚下照明

建築化照明



- オフィスやホテル、病院、学校、美術館、寺社仏閣などの間接照明、ファサード照明

紫外線除菌装置



- あらゆる場面の空間除菌にご利用いただける除菌装置

電気工事・設計管理

- 信頼性の高い電気設備工事を提供
- 計画、設計から施工まで一貫して取扱う



LED特殊光源



- 防水・防湿技術ノウハウを活かした植物育成用LEDモジュール

② 蛍光色材事業 (シンロイヒ^株)

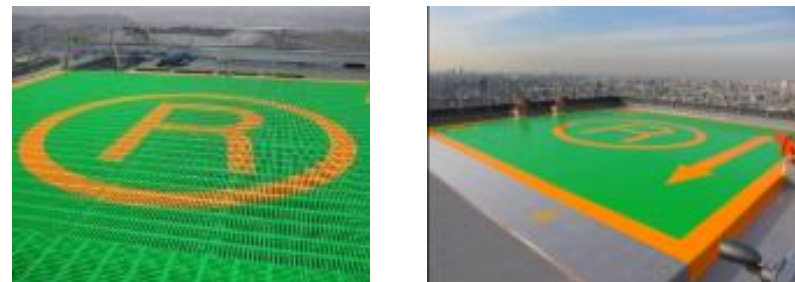
- 主力製品の蛍光顔料のほか、蛍光・蓄光・反射塗料や光フィルム、蓄光テープ、ルミライトカラー、UV発光不可視インク、蛍光ヘリサイン、安全防災用色材などを手掛ける国内唯一の蛍光色材の総合メーカー

安全防災マーキング



- 駅ホーム落下防止安全対策CPラインや、河川水害対策の量水標で使用されている蛍光塗料

ヘリポートサイン



- 高層ビルの災害時に高い視認性で効果を発揮する緊急離発着場専用の蛍光塗料

捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 衣服など繊維の染色や印刷用途で使用されている蛍光顔料

テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

本日はありがとうございました

彩り企業、DNT。

IRに関するお問い合わせ先

大日本塗料株式会社 管理本部 経営企画室

.....
電話：06-6266-3103
e-mail：dnt-sou@star.dnt.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界動向や外部環境認識等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。